

1. 被服にはいろいろな種類、用途があるが、これまでの研究により、それらは大きく、必需品と不必要品に分けることができ、また各々の耐用年数も算出することができた。ここでは被服の手持量は購入量とどのような関連があるのか。それは被服の種類や着用する人の性、年齢、収入などにより、どのような相違があるかを明らかにするものである。

2. 資料は昨年本学会に報告したものと同じで、再集計したものである。

対象は北海道内の婦人団体に属する主婦のいる343世帯で、対象人員は1220名である。調査方法はアンケートによった。調査内容は、調査票は世帯票、個人票に分け、世帯票には世帯員の住所、職業、年間収入、性別、年齢、学歴、続柄、同居、別居の別を記入して貰い、個人票には24種の被服について、地質別に手持量、1年以内の新規購入数、着用月を1枚ずつ記入して貰った。

今回は、各被服品の銘柄別に、手持量と1年以内の新規購入量の相関、手持量と手持量中に占める購入量の割合との相関を性別と年齢別に計算し、関連を調べた。

3. 被服の手持量と1年以内の新規購入量の間に統計的に相関の高いものは見受けられない。被服の銘柄による相違は、あまりないが年齢、性による相違が認められる。